

1

迷惑電話を拒否する

(着信拒否)

非通知やあらかじめ登録しておいた電話番号から電話がかかってきた場合に、着信を拒否することができます。非通知の場合は、ナンバーディスプレイ契約が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

< 個別着信中に着信拒否登録する >

操作手順

着信拒否



1 [着信拒否] キーを押す

< 外線通話中に着信拒否登録する >

操作手順

着信拒否



1 [着信拒否] キーを押す

< 着信記録から登録する >

操作手順

1 ▷ キーを押す
着信記録が表示されます。

2 キーで着信拒否をする着信記録を選び、[メニュー/決定] キーを押す



3 “4 (着信拒否北° -)” を選び、[メニュー/決定] キーを押す



4 “2 (エリア番号)” を選び、[メニュー/決定] キーを押す

5 キーで空エリア番号を検索し、[メニュー/決定] キーを押す
登録ができた場合は、「ピー」と鳴ります。

6 [北°-カ] キーを押す

補足

フレキシブルキーに [着信拒否] キーを登録するには、P.42「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

個別着信中から着信拒否登録をしたときは、次の着信から着信拒否します。

! 注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

補足

操作手順1のかわりに
1. [メニュー/決定] キーを押す
2. キーで“2 (履歴表示)”を選び [メニュー/決定] キーを押す
3. キーで“2 (着信記録)”を選び [メニュー/決定] キーを押すと操作してもできます。

補足

非通知の電話の着信拒否は、システムのデータ設定が必要です。販売店にご相談ください。

登録できる電話番号は、システムで50件、最大桁数は20桁です。

ISDN回線の場合は、応答前に着信拒否しますが、アナログ回線は、モデムダイヤルイン以外は、自動応答後に切断します。

着信拒否する電話番号は、市外局番から登録してください。

< 着信拒否したい電話番号を登録する >

操作手順

着信拒否



1 [着信拒否] キーを押す

2 “ 1 (相手番号) ” を選び、[メニュー/決定] キーを押す



3 相手番号をダイヤルし [メニュー/決定] キーを押す



4 “ 2 (エリア番号) ” を選び、[メニュー/決定] キーを押す



5 方向キーで空エリア番号を検索し、[メニュー/決定] キーを押す

補足

操作手順1のかわりに

1. [メニュー/決定] キーを押す
2. 方向キーで “ 3 (番号登録) ” を選び [メニュー/決定] キーを押す
3. 方向キーで “ 3 (着信拒否登録) ” を選び [メニュー/決定] キーを押すと操作してもできます。

< 着信拒否登録の変更または削除 >

操作手順



1 [メニュー/決定] キーを押す



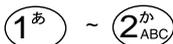
2 “ 1 (番号検索) ” を選び、[メニュー/決定] キーを押す



3 “ 4 (着信拒否検索) ” を選び、[メニュー/決定] キーを押す



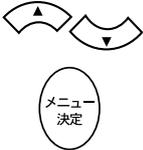
4 方向キーで登録を変更または削除する電話番号を検索し [メニュー/決定] キーを押す



5 “ 1 (内容変更) ” または “ 2 (登録削除) ” を選び、[メニュー/決定] キーを押す

登録削除を選んだときは、「ピー」と鳴り登録は削除されます。

続けて内容変更または登録削除するときは、次に操作手順4となります。終了するときは、操作手順10となります。

- 
6 “1 (相手番号)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 
7 電話番号を修正入力し、[メニュー/決定] キーを押す
 修正箇所まで キーでカーソルを移動させ、[戻る/削除] キーで削除し、再入力します。
- 
8 “2 (エリア番号)”を選び、[メニュー/決定] キーを押す
- 
9 修正前の「エリア番号」または空エリア番号を選択し [メニュー/決定] キーを押す
- 
10 [スピーカー] キーを押す

2 ナンバー・リクエストサービスを利用する

INSナンバー・リクエスト/ナンバー・リクエスト（アナログ回線）サービスとは、電話番号を通知しないでかけてきた相手に、電話番号を通知してかけ直すよう音声メッセージで応答するNTT（東/西）のサービスです。

< 利用を開始/停止する >

操作手順

- 
1 契約している [外線] キーを押す
- 
2 “1” “4” “8” をダイヤルする
 『現在INSナンバー・リクエストが「停止/開始」しています。（アナログ回線の場合：現在このサービスは「停止/開始」しています。）サービスの停止は数字の“0”、サービスの開始は数字の“1”を押してください。』

補足

ナンバー・リクエストの契約にはナンバー・ディスプレイまたはナンバー・アナウンス（アナログ回線）の契約も合わせて必要です。

ナンバー・リクエストの音声メッセージの内容
 『こちらは
 〇〇です。おそれいりますが、電話番号の前に、186をつけてダイヤルするなど、あなたの電話番号を通知しておかけ直してください。』

0 ワ オン 記 号

または

1 ア

3 “0”または“1”をダイヤルする

0の時：『サービスを停止いたしました。』

1の時：『サービスを開始します。』

スピーカ

4 [スピーカ]キーを押す

3

ナンバーディスプレイサービスを利用する

3.1 発番号対応着信

受信発番号ごとに着信形式を設定することで、着信先（昼／夜）を選択できます。

着信形式	一般
	付加番号DID
	DIL
	遠隔PB保守

登録 システム短縮番号の登録が自動的に反映されます。
 電話番号の登録は、市外局番から登録してください。

3.2 発番号別着信音選択

受信発番号ごとに着信音を選択することができます。

着信音	5種類の中から選択できます。
登録	システム短縮番号の登録が自動的に反映されます。

3.3 ネームディスプレイ情報を表示する

アナログ回線、ISDN回線からのネームディスプレイで通知される情報を着信先の電話機に表示します。

〔着信中の表示イメージ〕

〈株〉鈴木商事営業一部
12/01 〈月〉 am10:10

補足

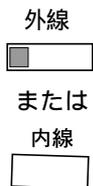
表示指定は、電話機ごとに設定可能です。詳しくは販売店にご相談ください。
 短縮名称登録がある場合は、受信したネームディスプレイ情報は表示されません。
 ネームディスプレイ情報に表示が不可能なコードが含まれる場合（第3/4水準の漢字は表示できません）“ ”にてコードを置換して表示します。

4 受話器を上げずにかける

(オンフックダイヤル)

受話器をあげずに外線、内線にダイヤルできます。相手が応答したら、受話器をあげて通話できます。

操作手順



- 1 [外線] または [内線] キーを押す
 外線にかける場合、[発信] キーまたは、外線ランプが消えている [外線] キーを押します。
 内線にかける場合、[内線] キーを押します。



- 2 外線または内線の電話番号をダイヤルする
 [短縮] キーを押した場合は、システム短縮番号をダイヤルします。

補足

オフフック外線自動捕捉の場合は、操作手順1で [スピーカ] キーを押しても外線にかけられません。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。



- 3 相手の応答する声が「スピーカ」から聞こえたら、受話器をあげて通話する

5 相手の音声をスピーカで聞く

(スピーカ受話)

受話器で通話中に、相手の声を「スピーカ」から聞くように切替えられます。

操作手順



- 1 通話中に [スピーカ] キーを押す
 スピーカ受話に切替わります。
 こちらの音声は、相手には聞こえなくなります。

補足

スピーカ受話中は ①② キーでスピーカの音量が調節できます。



- 2 受話器を戻す
 受話器をあげるとスピーカ受話は解除され、通常の受話器による通話に戻ります。

6 Lモード(インターネット)を利用するには

<Lモード端末収容>

市販のLモード対応の電話機を収容できます。Lモード対応の電話機を収容する場合は、販売店にご相談ください。

<Lモード対応電話機の操作方法>

外線発信手順



1 受話器をあげる



2 相手の電話番号をダイヤルする

3 相手が応答すると通話ができる



4 通話が終了したら受話器を戻す

内線発信手順



1 受話器をあげる

2 3秒以内にフッキングする



3 相手の電話番号ダイヤルする

4 相手が応答すると通話ができる



5 通話が終了したら受話器を戻す

補足

Lモードのサービスを受けるためには、Lモードサービスの契約が必要です。
Lモード対応の電話機を収容する場合は、オフフック外線自動捕捉の設定が必要です。

<メッセージ到着のお知らせ>

メールまたはメッセージの到着を多機能電話機で知ることができます。フレキシブルキーに、それぞれの契約番号に対応した〔センターメール〕キーを割り付けておく必要があります。

マジックボックス
Lモードサービス

(メッセージありの場合)

〔センターメール〕ランプが赤で点灯します。

(メッセージの確認)

〔センターメール〕キーを押すことにより確認できます。

センター番号1にメッセージあり

0123456789
センター:1

センター番号1, 2にメッセージあり

0123456789
センター:12

全センターメッセージなし

0123456789
メッセージなし

補足

〔マジックボックス〕〔Lモードサービス〕を受けるためには、それぞれのサービスの契約が必要です。

対応サービスは、次のように割り付けます。

- ・マジックボックス センター1
- ・Lモードサービス センター2

7**i・ナンバー機能、ダイヤルイン機能を利用する**

この機能を利用するときには、NTTとのi・ナンバー契約またはダイヤルイン契約が必要です。この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

8

3人以上で通話する

電話機は通常1対1の通話で、他人が聞くことができない秘話になっています。この秘話を解除することで3人以上で通話する会議通話、割り込み通話ができます。この機能を使う場合は、PB信号の初期設定「あり」を「なし」に変更してください。詳しくは販売店にご相談ください。

8.1 会議通話をする（会議通話）

外線または内線と通話中に電話をかけ、もう一人通話に加え会議通話ができます。会議通話は二人まで加えて4者による通話までできます。

操作手順

- 内線
- 1 通話相手に会議通話をはじめることを伝え、[内線]キーを押す
- 2 外線または、内線にダイヤルする
- 3 相手の応答に、会議通話に加わるよう伝える
 たとえば、「今 〇〇 の件で田中さんと話しています。山田さんも加わってください。」と伝えます。
- 4 了解を得てから [秘話/会議] キーを押す
 LCDディスプレイの2段目に、『会議通話』と表示されます。
 [秘話/会議] ランプは赤く点灯します。
 3者で会議通話ができます。
- 秘話/会議

補足

フレキシブルキーに [秘話/会議] キーを登録するには P.42 「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

あらためてダイヤルして、4者による会議通話ができます。

外線2者と会議通話中に [指定外線転送] キーを押すことにより外線手動転送となります。

8.2 通話に3人目を加える（秘話解除）

外線との通話中に秘話を解除し、もう一人通話に加えて3者による通話ができます。

操作手順

- 秘話/会議
- 1 通話にもう一人加えることを伝え [秘話/会議] キーを押す
 LCDディスプレイの2段目に、『会議通話』と表示されます。
 秘話は解除されます。
- 2 通話に加わる人に口頭で呼びかける
 たとえば、「山川さん外線1番の通話に加わってください。」と呼びかけます。

補足

もう一人加えて、4者による通話ができます。

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、呼びかけられた人は [外線] キーを押してから受話器をあげて通話します。



- 3 呼びかけられた人は受話器をあげる
受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

外線



- 4 通話中の [外線] キーを押す
3者での通話ができます。

8.3 通話中の外線に割込む（外線割込み通話）

通話中の外線に割込んで、通話に加わることができます。

操作手順



割込



- 1 受話器をあげる
受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

- 2 [割込] キーを押す
割込みランプは赤く点滅します。
LCDディスプレイの2段目には「ワリコミサキ：」と表示されます。

- 3 通話中の [外線] キーを押す
LCDディスプレイの2段目に、『割込通話』と表示されます。
通話中の内線電話機には、割込み音「ピー」が送られます。
割込みができ、3者通話ができます。

外線



補足

フレキシブルキーに [割込] キーを登録するには、P.42「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。
受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、[外線] キーを押してから受話器をあげて通話します。

注意

割込みができる内線は特定の内線だけです。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

8.4 通話中の内線に割込む（内線割込み通話）

通話中の内線に割込んで、通話に加わることができます。

操作手順



割込



- 1 受話器をあげる
受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

- 2 内線番号をダイヤルする
受話器から「ツーツーツ」と話中音が聞こえます。

- 3 [割込] キーを押す
LCDディスプレイの2段目には、『割込通話』と表示されます。
ダイヤルした内線番号の電話機には、割込み音「ピー」を送ります。
割込みができ、3者通話ができます。

補足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、[外線] キーを押してから受話器をあげて通話します。

注意

割込みができる内線は特定の内線だけです。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

9 便利な転送機能

9.1 発信元と転送先を交互に通話する（チェンジオーバー）

転送者は発信元と（電話をかけてきた人と）、転送先の人と交互に通話することができます。また、かかってきた2本目の外線と交互に通話することができます。

操作手順

内線
□

1 通話相手に保留することを伝え [内線] キーを押す

受話器は「ツツツ」の発信音に変わります。
内線ランプは赤く点滅します。
外線ランプは緑のままです。
保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。

外線
□

2 空いている [外線] キーを押す



3 転送先の電話番号をダイヤルする

4 転送先と通話する

内線
□

5 転送先に保留することを伝え [内線] キーを押す

転送先の相手には、保留音（メロディ）を送ります。

6 電話をかけてきた人との通話に戻る
[内線] キーを押すことで、通話相手を交互に変えることができます。

補足

かかってきた2本目の外線と交互に話すには、操作手順2で次にかかってきた2本目の [外線] キーを押し、通話します。チェンジオーバーするには、操作手順5にいきます。転送先が内線の場合、操作1の次に3で内線番号をダイヤルします。チェンジオーバー中に [指定外線転送] キーを押すと手動転送となります。（P.99）転送者が [秘話/会議] キーを押すと、発信元と転送先との3者会議通話ができます。（P.114）

9.2 外線発信の依頼を受けたとき（外線依頼発信）

外線と通話中に外線に発信して、つながった外線を内線に転送できます。

操作手順

内線



- 1 外線発信の依頼を受けたときは、「受話器を戻さずにお待ちください」と伝え [内線] キーを押す

受話器は「ツツツツ」発信音に変わります。

発信依頼者には保留音（メロディ）を送ります。

外線



- 2 外線ランプが消えている、[外線] キーを押す

外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。



- 3 依頼された電話番号をダイヤルする

- 4 相手に用件を伝える

たとえば「田中さんからの電話です。今おつなぎします。」と伝えます。

内線



- 5 [内線] キーを押す

発信依頼者に、たとえば「中村さんとつながりました。」と伝えます。

相手には保留音（メロディ）を送ります。



- 6 受話器を戻す

発信依頼者と田中さんの電話はつながります。



応接室や倉庫など「外線発信」できない電話機および自分の席に戻らないと外線番号がわからないなどのとき便利です。

10 ボイスワープを利用する

NTTとサービス契約している外線を押すだけで、ボイスワープのサービスを受けられます。なお、不在転送、代表スライドの機能を使っている場合は、<ボイスワープの運用を優先する>操作（P. 120）をしてください。

ボイスワープ運用を優先するとは、不在転送、代表スライドを設定していてもボイスワープを優先する機能です。不在転送、代表スライドを設定していない場合は、この操作は必要ありません。

<ボイスワープのサービスを受けるための操作手順>

この操作手順は、本システムを使ってNTTのサービスであるボイスワープのサービスを受けるための操作手順です。ご利用の際は、NTTの「ボイスワープ使用説明書」を併せてお読みください。

[外線]: サービスを契約している外線を押します。
操作手順ごとに「ガイダンス」が流れます。

項目	操作手順
転送先登録 転送先リスト0への登録	(サービス番号) (転送先電話番号) 外線 → 1 ^あ 4 ^た GH 2 ^か ABC 2 ^か ABC → 1 ^あ 2 ^あ ABC 3 ^あ DEF → 4 ^た GH 5 ^た JK 6 ^は MNO → 7 ^な PQRS 8 ^ん TUV 9 ^ん WXY → * 0 ^{をん} 録音 # → スピーカ
転送先登録 転送先リスト1～4への登録	(サービス番号) (リスト番号) 外線 → 1 ^あ 4 ^た GH 2 ^か ABC 4 ^た GH → 0 ^{をん} 録音 → 1 ^あ ~ 4 ^た GH (転送先電話番号) → 1 ^あ 2 ^あ ABC 3 ^あ DEF → 4 ^た GH 5 ^た JK 6 ^は MNO → 7 ^な PQRS 8 ^ん TUV 9 ^ん WXY → * 0 ^{をん} 録音 # → スピーカ
転送先リストの指定 (登録されているリストから実際に転送される相手を1つ指定します。)	(サービス番号) (リスト番号) 外線 → 1 ^あ 4 ^た GH 2 ^か ABC 4 ^た GH → 1 ^あ → 0 ^{をん} 録音 ~ 4 ^た GH → 9 ^ん WXY → スピーカ 転送先リストを指定しない場合はリスト0が転送先となります。
転送サービスの開始のしかた (転送先電話番号の登録および転送先リストの指定を行った上で、ボイスワープの開始を行ってください。)	(サービス番号) (転送方法番号) 外線 → 1 ^あ 4 ^た GH 2 ^か ABC 1 ^あ → 1 ^あ ~ 4 ^た GH → スピーカ 転送方法番号 ① ^あ : 無条件転送 アナログ回線でご契約の場合は、② ^か ABC: 無応答時転送 転送方法番号入力はありません。③ ^あ DEF: 話中時転送 ④ ^た GH: 無応答および話中時転送
転送サービスの停止のしかた	(サービス番号) 外線 → 1 ^あ 4 ^た GH 2 ^か ABC 0 ^{をん} 録音 → スピーカ

第6章

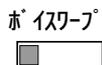
項目	操作手順
<p>無応答時転送の起動時間の設定 (無応答時転送を指定した場合に転送元が何秒後応答しなかった時点で転送を行うかを指定します。)</p>	<p>外線 → (サービス番号) 1^あ 4^た 2^か 3^さ → (転送時間番号) 0^び ~ 1^あ 1^あ → スピーカ</p> <p>転送時間番号 0^び: 5秒 1^あ: 10秒 2^か: 15秒 3^さ: 20秒 4^た: 25秒 5^な: 30秒 6^は: 35秒 7^ま: 40秒 8^や: 45秒 9^ら: 50秒 1^あ 0^び: 55秒 1^あ 1^あ: 60秒</p> <p>アナログ回線でご契約の場合は、「呼び出し回数」0~9となります。転送元の電話を呼び出さずに転送先に転送します。</p>
<p>転送通知用トーキの設定のしかた</p>	<p>外線 → (サービス番号) 1^あ 4^た 2^か 4^た → (トーキ番号) 2^か → 0^び ~ 3^さ → スピーカ</p> <p>トーキ番号 0^び: アナウンスなし 1^あ: 「ただいまより電話を転送いたします」 2^か: 「ただいまより電話を転送いたします。転送先までの電話料金は当方で負担いたします」 3^さ: 「ただいま電話を呼び出しております」</p> <p>アナログ回線でご契約の場合は、トーキ番号の後に 9^ら を入力します。</p>
<p>転送元案内トーキ (転送先へのアナウンス) の設定のしかた</p>	<p>外線 → (サービス番号) 1^あ 4^た 2^か 4^た → (トーキ番号) 4^た → 0^び ~ 1^あ → スピーカ</p> <p>トーキ番号 0^び: アナウンスなし 1^あ: 「この電話は (転送元電話番号) から転送されました」</p> <p>アナログ回線でご契約の場合は、トーキ番号の後に 9^ら を入力します。</p>
<p>現在の設定状況の確認</p>	<p>外線 → (サービス番号) 1^あ 4^た 2^か 8^や → (確認番号) 0^び ~ 4^た → スピーカ</p> <p>確認番号 0^び: 転送先リストの登録内容確認 1^あ: 転送トーキの指定状況確認 2^か: リモートコントロールの指定状況確認 3^さ: 転送元案内の指定状況確認 4^た: 応答後転送の指定状況確認</p> <p>アナログ回線でご契約の場合は、確認番号 4^た がありません。</p>
<p>リモートコントロール機能</p> <p>暗証番号の設定 (リモートコントロール機能を利用して本システム外の電話からでもボイスワープの開始、停止および転送先変更操作ができます。)</p> <p>リモートコントロールの操作のしかた</p>	<p>(サービス番号) 1^あ 4^た 2^か 4^た → (暗証番号 (数字4桁)) 3^さ 1^あ → (電話番号) 4^た 5^な 6^は 7^ま → スピーカ</p> <p>1^あの代わりに 0^び を押し、リモートコントロール機能を「利用しない」設定となり、スピーカで操作完了となります。</p> <p>(外出先から電話をかける) (サービス番号) 1 4 2 7 → [PB信号] → (電話番号) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 #</p> <p>(電話番号) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 # → (操作の種類番号) 0 ~ 2 → (電話番号) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 #</p> <p>操作の種類番号 0: 転送サービスの停止 1: 転送サービスの開始 2: 転送先リストの変更</p> <p>転送先リストの変更をする場合は、操作の種類番号の後、転送先リスト番号 0 ~ 4 を押してください。</p> <p>暗証番号を4回連続して間違えると、それ以降の操作ができなくなります。この場合、暗証番号を再度登録し直す必要があります。</p>

<ボイスワープの運用を優先する>

この機能が使えるのは、ISDN回線の外線個別着信が「DIL/着番号DID/着サブアドレスDID/i・ナンバー」に設定しているときです。またボイスワープのサービスが話中転送または無応答転送と話中転送の併用のとき、対象内線が塞がっているときに限られます。

ボイスワープのサービスが無条件転送、無応答転送のみのとき、対象内線が塞がっていないときや外線個別着信が「DIL/着番号DID/着サブアドレスDID/i・ナンバー」以外に設定しているときは、このサービスが受けられませんのでご注意ください。

操作手順



- 1 [ボイスワープ] キーを押す
[ボイスワープ] ランプが赤点灯し、ボイスワープの運用を優先する状態になります。

<ボイスワープの運用の優先を停止する>

操作手順



- 1 [ボイスワープ] キーを押す
[ボイスワープ] ランプが消灯し、ボイスワープの運用の優先を停止します。

補足

この機能は設定した電話機のみ運用となります。
「PB自動切替」ならびに「通話中信号切替」の初期設定を変更している場合は、[PB信号] ランプの消灯を確認のうえ通話中に[キパッド] キーを押すことによりINSボイスワープの設定内容を変更することができます。フレキシブルキーに[ボイスワープ] キーならびに[キパッド] キーを登録するには、P.42「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

注意

この機能を使用する場合、販売店にご相談ください。
この機能を利用するにはNTTとの契約が必要です。

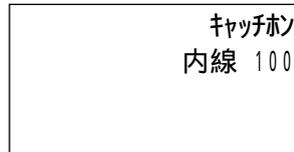
11

キャッチホンと表示されたときは

外線または内線と通話中に他の内線から着信があると、LCDディスプレイに「キャッチホン」と表示されます。通話中の相手を一時保留し、着信の相手と通話できます。

操作手順

通話中に着信を受けた状態
LCDディスプレイの1段目に『キャッチホン』と表示されます。



内線



1 通話中の相手に保留することを伝え、 [内線]キーを押す

かかってきた内線電話とつながります。
通話中だった相手には、保留音（メロディー）を送ります。
内線キーランプが赤く点滅します。

内線



2 前の相手に戻るときは、[内線]キーを押す

相手が受話器を戻すまでは、[内線]キーで繰返し相手を変えて通話できます。

補足

操作手順1で[内線]キーのかわりにフッキング操作（P.29）でも行うことができます。

! 注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

12 相手が内線通話中に特番操作で終話をうながすには

(通話中着信)

相手内線が通話中のとき、特番をダイヤルすることによって相手内線に通話中着信表示を行い、終話をうながすことができます。また、相手内線は[内線]キー(単独電話機はフッキング)によって、呼出内線と通話することができます。

<内線通話中の相手呼び出すには>

操作手順

呼び出す側



1 受話器をあげる
受話器から「ツー」と発信音が聞こえます。



2 内線番号をダイヤルする
受話器から「ツーツーツ」が聞こえます。



3 「通話中着信特番」をダイヤルする
相手が[内線]キーを押すか、またはフッキング操作によって応答すると、通話できます。

補足

この機能を使う場合は、「話中着信音」を「あり」にしてください。詳しくは販売店にご相談ください。

! 注意

この機能を使用する場合は、内線キャッチホン、シリーズコールとの併用はできません。いずれか1つの機能だけ使用できます。

呼び出される側

通話中に着信を受けた状態
受話器から「ピー・・・ピー」と音が聞こえます。



1 通話中の相手に保留することを伝え、[内線]キーを押す
かかってきた内線電話とつながります。
通話中だった相手には、保留音(メロディー)を送ります。
内線キーランプが赤く点滅します。

補足

PB通話中、メモダイヤル中も通話中着信が入ります。



2 前の相手に戻るときは、[内線]キーを押す
相手が受話器を戻すまでは、[内線]キーで繰返し相手を変えて通話できます。

13

[DSS]キーで電話をかける

フレキシブルキーは相手電話機の使用状態がわかる[DSS](内線番号)キーとして使うことができます。

操作手順



1 受話器をあげる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

DSS



2 [DSS]キーを押す

[DSS]ランプは赤く点灯します。

[DSS]ランプが点灯している場合は、相手電話機は使われています。

相手が応答すると、通話ができます。



3 通話が終了したら、受話器を戻す

補足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、受話器をあげる前に[DSS]キーを押します。フレキシブルキーに[DSS]キーを登録するには、P.49「フレキシブルキーにDSSキーを登録する」を参照してください。

14

プッシュホン信号を送る

(PBエンド・ツー・エンド通信)

ダイヤル回線でも外線と接続後にプッシュホン(PB)信号が送れます。これにより銀行の残高照会などのプッシュホンサービスが受けられます。初期設定は、PB信号自動切替になっていますので[P.B信号]キーを押す必要はありません。

15 ポーズ信号を自動的に挿入する

(オートポーズ)

ボタン電話装置に接続されている電話機では外線に発信する場合、システムで自動的にポーズ信号が挿入されます。このような場合、わざわざ外線とつながるまでの間にポーズを入れなくても電話がかけられます。

ただし、ISDN回線、VOIP専用線をお使いの場合は、オートポーズは挿入されません。

16 指定外線から直接内線に着信させる

(付加番号DID)

指定外線にかけPB信号で内線番号をダイヤルすることにより、内線を直接呼び出すことができます。

操作手順

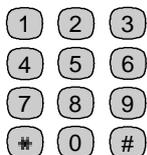
外出先から



1 外出先から会社電話をかける

次のメッセージがアナウンスされます。

例：『こちらはダイヤルイン電話です。プッシュホンでおかけの方は続けて内線番号をダイヤルしてください。ダイヤルでおかけの方はしばらくお待ちください。』



2 内線番号をダイヤルする

社内



1 ハンドセットをあげる

ハンドセットをあげるだけで応答できます。



この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

17

停電について

17.1 停電中に一定時間電話の機能を維持する

オプションのバッテリーを主装置内に接続すると、停電中でも一定時間は電話をかけた
り、受けたることができます。通常の使用状態では約5分間、電話の機能を維持することが
できます。

フレキシブルキーに[停電]キーを登録しておくことにより、停電バッテリーに切り替
わったとき赤点滅します。停電バッテリーからAC電源復旧によりランプは滅灯します。
また、主装置に長時間対応の外部バッテリーを接続することもできます。主装置には発
電機などの無停電電源装置も接続できます。



停電時にバックアップされる機
能は全機能です。機能または端
末ごとの制限はできません。

17.2 停電用電話機について

停電用電話機を接続すれば、バッテリーが切れても外線と直通となっている停電用電話
機で、通常通り電話をかけた
り、受けたることができます。

停電用電話機としてアナログ用停電電話機とデジタル用停電電話機を用意しています



停電の対策は、販売店にご相談
ください。

18

長電話を知らせる

(長時間通話警告)

外線発信には長電話を防ぐため、一定時間が過ぎると長時間通話警報音を鳴らします。
外線に発信してから2分30秒後に1回目の警告音を鳴らし、その後3分ごとに警告音を
鳴らします。

(警報音の送中は、課金表示有の時だけ行なわれます。)



この機能を使用する場合は、販
売店にご相談ください。

19 秘書機能について

幹部と秘書電話機を登録することにより、秘書機能が使用できます。
秘書機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

19.1 幹部電話を設定する

工事設定をします。

19.2 幹部電話機が話中の場合には（話中転送）

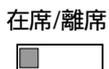
幹部電話機が話中の場合に着信があると、自動的に秘書電話機に転送されます。

19.3 幹部電話機が離席設定の場合には（離席転送）

幹部電話機の [在席/離席] キーのランプが消灯している場合、すべての着信は秘書電話機に転送されます。

< [離席] にするには >

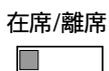
操作手順



- 1 幹部電話機で [在席/離席] キーを押す
[在席/離席] キーランプは消灯します。
秘書電話機の幹部 [DSS] キーランプも消灯します。

< [在席] にするには >

操作手順



- 1 幹部電話機で [在席/離席] キーを押す
[在席/離席] キーランプは緑で点灯します。
秘書電話機の幹部 [DSS] キーランプも緑で点灯します。

補足

転送には、いろいろな転送があります。「転送に関する用語」(P.161)にまとめてありますのでご覧ください。
フレキシブルキーに [在席/離席] キーを登録するには、P.42「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

19.4 幹部電話機が着信拒否をした場合には（着信拒否転送）

幹部電話機が着信鳴動中に [在席/離席] キーを押した場合は、幹部電話機の鳴動は停止し秘書電話機が着信鳴動になります。

19.5 幹部電話機の在席 / 離席を代行するには（代行操作）

秘書電話機で幹部電話機の在席/離席が設定できます。また、幹部電話機を呼出すことができます。

秘書電話機の [幹部DSS] キーで幹部電話機の在席、在席転送、離席を登録できます。
幹部DSSキーランプは在席で緑点灯、在席転送で橙点灯、離席で消灯します。

19.6 幹部電話機が応答しない場合には（応答遅延転送）

幹部電話機が着信に対して一定時間応答しない場合は、秘書電話機に転送されます。

20

主装置で設定する機能

主装置で設定する機能の詳細は、販売店にご相談ください。

20.1 外線発信を規制するには（発信テナント）

電話機ごとに指定された外線と、つながないように規制できます。

20.2 市外発信を規制するには（市外発信規制）

電話機ごとに市外発信を規制できます。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

20.3 指定市外のみ発信させるには（帯域市外発信規制）

指定の市外のみ発信でき、それ以外の市外発信はできません。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

20.4 海外発信を規制するには（国際発信規制）

電話機ごとに海外発信を規制できます。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

20.5 特定の海外(国)のみに発信させるには（特定国際発信規制）

特定の海外にはかけられる電話機を指定できます。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

20.6 内線番号を登録するには（ナンバーグループ）

お客様の運用に応じて1桁から4桁までの内線番号を混在して設定できます。

20.7 発信者番号別に着信を分けるには（発信者番号別着信）

NTTのナンバーディスプレイサービス契約回線より受信した発信者番号別に、着信先、着信方法、着信時の着信音（音色）を指定できます。

20.8 課金データを遠隔地から収集するには（課金データ遠隔収集）

公衆回線を利用して、遠隔地のパソコンからRPIに蓄積されている課金データを収集することができます。

20.9 一般着信時の着信先が塞がっているときに着信を規制するには（使用中着信規制）

一般着信時、着信先が使用中のときに、着信を規制するかどうかを指定できます。